

技術センターでは、中小企業の皆さんの技術基盤の強化や技術者等の養成、新事業展開に役立てていただくため、各種研究会を開催しています。今年度実施する研究会の中から4つの研究会をご紹介します。

不良解析技術研究会

新設

製造や流通の過程などで発生する不良品や不具合品。その原因を突き止める手法を学ぶ「不良解析技術研究会」を新たに立ち上げます。本研究会は、少人数制で、会員と当センターの技術職員が実際の事例を元に議論・検討し、よりの確で効率的な手法を研究していくものです。

自社だけでは解決できない問題解決の手がかりを、この研究会でつかみましょう。

活動内容

定例会(年5回)

5月、6月、8月、10月、12月(初回はガイダンスを予定)

会員ごとに設定するテーマについて、相互に議論・検討することで、原因究明へのアプローチの方法、分析手法、データの解釈の仕方などを学びます。

年会費

無料

定員

5名程度(年間を通じて参加可能な方)

申込・問合せ先

基盤技術課 化学・環境担当

TEL:075-315-8633 E-mail:kankyo@kptc.jp

こんなことはありませんか?

- 不良品の発生率を下げたい。
- 不具合の原因を突き止めたい。
- 新しく品質管理部門に配属されて、問題へのアプローチ方法が分からない。
- 関連会社からもたらされるデータの読み方が分からない。
- よその会社の技術者と意見交換したい。



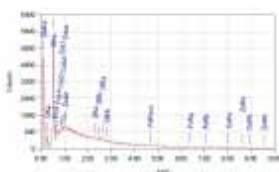
研究会では

- 研究したいテーマを各会員が設定!
- 会員同士で議論・検討!
- 当センターの機器による分析を体験!
- 必要に応じて専門家のアドバイスも!

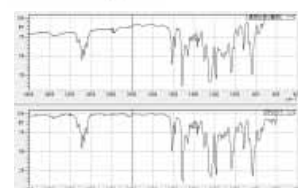
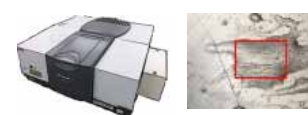


分析データを読み解くと…
おっ、こんなことも分かるんだ!

元素分析で
なにかわかるかも?



ウチでは汚れの分析は
こうしてますよ



機械設計者に必要とされる知識は設計から加工・計測まで、さらには電気関連技術までと非常に広範です。

技術センターでは、機械設計・製図に必要な技術知識から、機械部品等の形状評価を行う実際の計測技術、電気基礎技術まで理解を深める「機械設計・計測技術研究会」を新たに立ち上げます。設計技術力の向上をめざす技術者の皆さんの入会をお待ちしています。

活動内容

①機械設計・製図の技術知識

- ・寸法公差の基本と使い方
- ・形状設計テクニック
- ・幾何公差の基本

②計測技術の概要・実習

代表的な精密計測機器の概論、実習(実演)
(CNC三次元測定機、表面粗さ測定機等)

③電気・電子入門

回路、マイコン、EMCなど

開催日時

6月	11日	11月	19日(予定)
7月	24日	1月	21日(予定)
9月	3日	2月	18日(予定)

時間:10:00~17:00

対象者

設計・製図経験が2年以上ある技術者で、年間を通じて参加可能な方

〈講師〉

山田 学 氏 (株)ラブノーツ 代表取締役
竹之内 徹 氏 (株)ラブノーツ シニアコンサルタント
益田 憲明 氏 人財技術教育研究所 代表
各種測定機器メーカー技術者
当センター技術職員

年会費

1人 10,000円 (別途テキスト代が必要)

定員

10名程度

申込・問合せ先

基盤技術課 機械設計・加工担当
TEL:075-315-8633 E-mail:mit09@kptc.jp

こんな方におすすめです!

- 体系的に学びたい方
- 関連することを幅広く習得したい方
- 他の技術者と交流したい方



計測技術の概要・実習(実演)で使用する計測機器

●曲面微細形状測定システム



仕様 測定範囲:X=120mm,Y=100mm,Z=12.5mm
測定分解能:0.8nm(Z方向)
測定用途 金属部品等の表面粗さやうねりの測定、薄膜の段差測定、輪郭形状の測定

●CNC三次元座標測定機



仕様 測定範囲:X=1,200mm,Y=1,000mm,Z=700mm
測定精度:空間精度(MPEE)=(0.6+L/800)mm
[L:測定長さmm]
測定用途 複雑形状部品等の寸法、角度、輪郭形状などを3次的に高精度測定

●精密真円度・円筒形状測定機



仕様 最大測定径:φ350mm
回転精度:(0.01+3H/10,000)μm[H:測定高さmm]
ゲージ分解能:±1mm範囲/0.008μm
測定用途 精密部品等の真円度、円筒度、同軸度、平面度、直角度、振れ等の測定

京都実装技術研究会は、接合・実装技術を中心に電子機器の生産性や信頼性向上をめざす勉強会として1987(昭和62)年に発足しました。発足直後にフロン廃止への対応を探る活動が大きなテーマとなり、その後も鉛フリー化に代表される有害物質規制(RoHS)の対応など、その時代時代で新たに発生する課題を解決するべく、共同で勉強会を実施するなど、会員の技術向上に努めてきました。現在でも、電子部品の微小化や工程の自動化など新たに解決しなければならない問題が山積しています。当研究会では、以下の活動を通じて、それらの課題解決に向け取り組んでいます。ぜひご参加ください。

活動内容

①定例会(年5回)

業界の最先端をつかさどる方々にご講演いただくセミナーや勉強会を開催。実装業界に関わる最新技術動向や課題解決へつながる幅広い情報を学びます。

②工場見学会(年1回)

先進的な取組を行っている工場や、課題解決の参考となる工場・施設などの見学会を開催。

③はんだ付け実技講習会(年2回程度)

実装技術の基本となる手はんだ作業について、実技実習を開催。はんだ付けの原理から、こて先の選び方、難しいはんだ付けの対処方法などを学びます。



④リフロー炉実験(随時)

中小企業技術センターに設置してあるリフロー炉を用いて、新たな実装技術の開発に向けた実験・研究を行う。その成果は、エレクトロニクス実装技術などの業界誌に掲載。

年会費

1社 20,000円

(定員に達しない限り1社から複数での参加が可能。会期は4月から翌年3月まで。年度途中の入会も同額。)

申込先(事務局)

応用技術課 電気・電子担当

TEL:075-315-8634 E-mail:ouyou@kptc.jp

初回の定例会(オープニングセミナー)のご案内を裏表紙に掲載しています。非会員の方も無料ですので、関心がおありの方はぜひご参加ください。

京都光技術研究会は、光技術を切り口として、企業連携による課題解決、新たな製品開発テーマの立ち上げを目的とした活動を行っています(昨年度参加企業22社)。各企業の強みとなる技術を持ち寄ってグループ化を図り、共同開発を行い、事業化を目指す「企業連携開発システムの実現」に取り組んでおり、企業連携による新製品開発を支援していきます。光に関連した技術をお持ちの企業の方や光技術と連携を考えている企業のご参加をお待ちしています。

活動内容

①定例会(年8回)

- ・外部講師による講演会、グループごとのミーティング
- ・光技術のトレンド、ニーズの汲み上げ

②グループ別技術検討会及び見学会(随時)

③交流会

会員間の連携を促進するための情報交換を目的とした交流会を随時開催

④光ものづくりセミナー

⑤展示会への出展

これまでの実績/OPIE'18・19(横浜)、
InterOpto2018(幕張)



OPIE'18



InterOpto2018

体制(2019年度・敬称略)

会長 山下 幹雄(北海道大学名誉教授)

アドバイザー 春名 正光(大阪大学名誉教授)

栗辻 安浩(京都工芸繊維大学教授)

田中 智子(同志社大学)

年会費

1社 20,000円

(定員に達しない限り1社から複数での参加が可能。会期は4月から翌年3月まで。年度途中の入会も同額。)

申込先(事務局)

応用技術課 電気・電子担当

TEL:075-315-8634 E-mail:ouyou@kptc.jp

次回例会のご案内

日時 令和元年5月17日(金) 13:00~

会場 京都府産業支援センター5階研修室

費用 非会員企業の方は初回参加のみ無料